



## ．．．新磯地区．．．

新磯地区は、水田地帯が広がるなど、緑が多く、豊かな自然に恵まれている地区です。そして、なんとといっても、江戸時代から伝わる「相模の大凧まつり」や、長さ約1,400メートルと日本一の長さを誇る「芝ざくらライン」を生かしたまつりなどの文化・観光行事には、県内外から多くの見学者が訪れています。

### イチ押し写真大賞



【撮影者】長谷川 重男

【タイトル】涼風をうけて

【撮影場所】磯部

【コメント】今では相模川の夏の風物詩になっている帆かけ舟。強い陽ざしのなか風に乗れ、白い帆が川面に映えて素晴らしい景観を作っていた。当時を思い出させてくれる。

#### 審査員寸評

相模川を行き来していた帆掛け舟の姿ですね。涼風を受けて進んでいく様子は当時を彷彿とさせてくれます。舟の姿がはっきりと捉えられ、背景も良くすばらしい仕上がりで、大賞にふさわしい作品です。

### 新磯地区優秀賞

【撮影者】猪俣 達夫

【タイトル】縄文人も仰ぎ見た丹沢山系

【撮影場所】勝坂

【コメント】この地は勝坂式土器の出土で知られている、勝坂遺跡に続いている場所。

約5000年前の縄文人が眺めた丹沢山系も、現代の我々が見る丹沢山系も姿は変わらない。5000年の悠久の時間の中に我々は生きている。



#### 審査員寸評

南区も新磯地区ではまだまだこのような景色が見られます。左側に取り込んだ桜の大木、野菜畑、そして住宅との構成がとても良い。

第5回「南区 私のイチ押し写真」  
応募作品発表



【撮影者】森 由美

【タイトル】芝ざくらまつり

【撮影場所】相模川

【コメント】芝ざくらまつりが南区のお祭りとして定着しつつありますので、さらに皆さんに知って欲しいと思います。

【撮影者】榎本 茂

【タイトル】ありがとう昭和の駅舎

【撮影場所】相模線・相武台下駅

【コメント】相武台下駅（昭和5年建）はネコの昼寝、ツバメの子育て、そして木造の駅舎とイチョウの黄葉が暖かい昭和の趣をより一層感じさせてくれたが、平成28年3月に姿を消した。駅舎にとって最後の秋を撮りました。感謝と名残惜しさが込みあげてきます。



【撮影者】榎本 茂

【タイトル】散策路の春

【撮影場所】新磯土手の芝桜まつり会場

【コメント】私が四季折々を感じながら散策する新磯の土手は土筆とともに春が訪れ、芝桜、桜並木そして大風へと華やかさが増していきます。気持ちが明るくなり、ウキウキしてくる散策路の春を表現してみました。



第5回「南区 私のイチ押し写真」  
応募作品発表



【撮影者】吉富 明德

【タイトル】タイムスリップ「帆掛け舟」相模川を遡上！！

【撮影場所】磯部民俗資料館先の相模川

【コメント】今回は伴走舟より岸辺からとは異なった間近のアングルで母なる川「相模川」の穏やかな流れ、古の運搬船「帆掛け舟」の懐かしい姿、そして前方に望む丹沢山系の3つの構図で捉えた一枚です。

【撮影者】和泉 勝雄

【タイトル】いこいの場

【撮影場所】新磯のざる菊

【コメント】毎年2、3回見に来ます。生産者の手入れが身にしみます。中々天気の良い時には当たりません、お年寄りが楽しそうに会話しているのでシャッターチャンスを待ちかまえてシャッターを切りました。

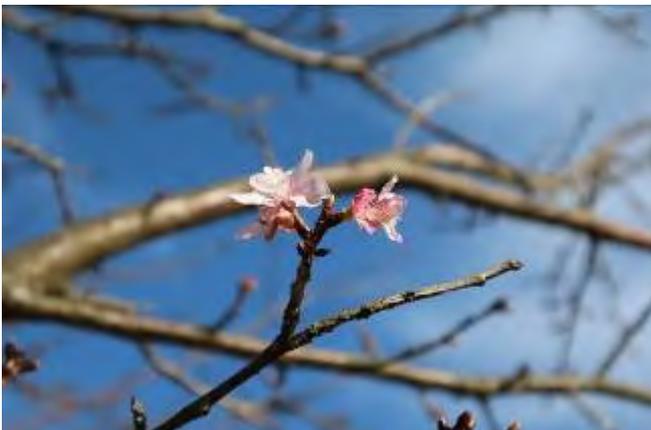


【撮影者】佐藤 千夏

【タイトル】新春

【撮影場所】勝坂歴史公園

【コメント】お正月明けに散歩していた時、偶然見上げた桜の木に開いた花を見つけました。寒い日でしたがひと足早い春を見つけたようでとてもほっこりした気分になりました。



第5回「南区 私のイチ押し写真」  
応募作品発表



【撮影者】オレンジパパ  
【タイトル】帆掛け舟  
【撮影場所】新磯地区  
【コメント】

